

臨床経験証明書

資格申請者氏名（ふりがな）

印

所属教団

上記の者は、（ 団体・組織名 ）にて、

（ 年 月 日から 年 月 日まで）（週あたり 時

間）、（ ）として活動していること

を証明します。詳細は、添付資料のとおりです。

年 月 日

所属先・職名

氏名

印

このページは印刷しないでください

- ・ A 4 用紙 1 枚に収まるように印刷してください。
- ・ 本書は見本です。そのまま使用する場合には、「活動先の団体・組織名」、「時期」、及び「週当たり（もしくは月当たり）の活動時間」、「当該活動における肩書きや立場」を明記してください。
- ・ なお、「臨床宗教師に推する 2000 時間以上の臨床経験」を証明できる内容であれば、別の書式でも構いません。
- ・ 記載内容はワープロ印字でも構いませんが、申請者と証明者の押印は必須です。
- ・ 「臨床経験証明書」の本紙とともに、**①当該活動を含む社会活動の経歴と活動概要、②よくある相談内容の例、③特に印象に残っている相談内容とそれに対する自身の対応**、の三点についてワープロ印字で A 4 用紙 4 枚程度にまとめたものを添付してください。

（添付書類の記載内容の例）

①経歴と活動概要（証明書をいただいた活動に下線）

2005 年 7 月～2020 年 2 月 NPO 法人〇〇会が主催する、認知症患者と家族の会を毎月 1 回、所属する■■■教会（A 県 S 市）において開催。参加者と茶菓をいただきながら世間話や、困りごとの相談を受ける。

2008 年 11 月～現在 社会福祉法人△△会が運営する特別養護老人ホームで、週 1 回 4 時間ほど、傾聴活動を行う。入居者、家族、時には職員のお話を伺う。

2011 年 7 月～2021 年 3 月 所属する教団が始めた東日本大震災の被災者支援活動に参加し、計 6 回岩手県釜石市でカフェを開催。被災者のお話を伺う他、海辺にて追悼会を行う。

2016 年 4 月～8 月 熊本地震の被災者支援活動として、X 宗、Y 神社、Z 教会などの宗教者とともに、宗教の枠を越えて物資支援かつどうを行う。最初は毎週集まり、5 月からは月 1～2 回のペースで実施。

②よくある相談内容の例（推薦書をいただいた活動）

△△会特別養護老人ホームでは、入居者のお話を聞く機会が多く、話題としては若い頃の思い出、入居前の仕事や生活、入居後のことなど多様ですが、中でも多いのは入居前の楽しい思い出と、入居後の苦悩です。家族のお話を聞く機会は

少なく、入居者さんについての情報を伺うことが多いと思います。職員については、仕事のことよりもプライベートな悩みを聞くことがあります。恋愛、家族関係、友人関係の話題が多いと思います。

③特に印象に残っている相談内容とそれに対する自身の対応

90代後半の女性（Aさん）は、認知症はないのですが足腰が弱くなり、それまで済んでいた自宅を処分して、ホームに入居しました。なかなか他の入居者となじめず、ひとりでぼつんとしていることが多いと伺っていました。ある時、職員さんからの紹介でお話を聞くことがあり、次のようなお話をされました。

「私は、住み慣れた家を処分して、終の棲家だと思って覚悟を決めて入居したのに、ずっと一人で。職員さんとは少しお話ができるけど、他の入居者さんは認知症の人が多くて、私の顔も覚えてくれない。それは仕方ないけれど、こんなことなら、一人で寝たきりでもいいから、あの家にいれば良かった。」

優しいような雰囲気だったのが、話し始めると怒りのような悲しみのような雰囲気が強くなり、私は、何も言えずに黙って聞くしかできませんでした。たまたま職員さんから呼ばれたので、「ごめんなさい。また、お話を聞かせてもらえますか？」とだけ言って退出しました。職員さんの声に助けられたような、情けない気持ちになりました。

翌週、職員さんにAさんのことを尋ねると、Aさんは私との会話の後、少し元気になり、明るくなったような雰囲気で、次回いつ私が訪問するのかニコニコと尋ねてきた、とのことでした。私にとっては針のむしろのような時間でしたが、Aさんにとってはいい時間だったのだと思い、ホッとしました。その後も、Aさんとは何度もお話を伺いましたが、最初にお会いしたときのことは今でも苦い思い出になっています。